



答弁中の中嶋町長

防災

防災対策の強化を望む

防災計画の改定で

問

4月に発生した熊本地震は、今までの常識を覆すような、広範囲に広がった震源、二度の最大震度7をはじめとした強い揺れの続発などから大きな損害を与えました。これまで九州における災害は、主に風水害であったことから、震災については比較的軽視されてきた感がありますが、今後その認識は一変する

でしょうか。

須恵町は、宇美断層が通っていますが、より懸念されるのは東にある西山断層帯、西の警固断層帯です。検討の上、より踏み込んだ防災対策が必要で、須恵町各施設の耐震化の状況、防災ハザードマップの充実、考案中の地域防災計画について伺います。

容量を確保できると考えています。

また、地域防災計画の改定については、現在、創意工夫を重ねているところですので。

答 御手洗 子ども教育課長

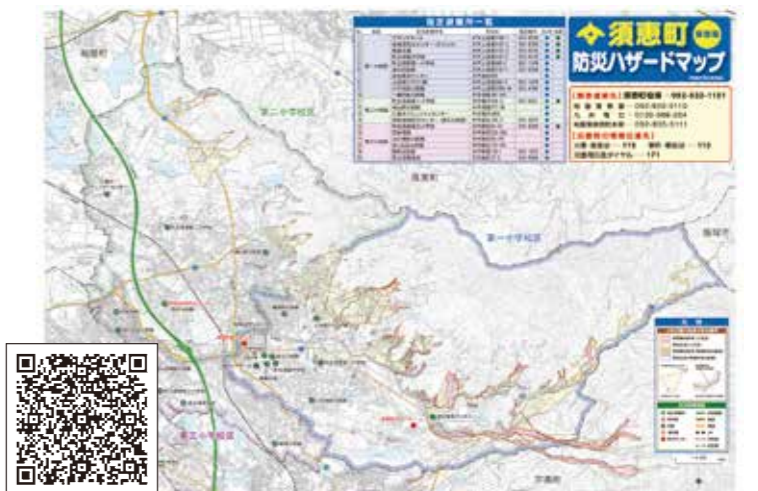
教育施設の非構造部材（天井や外壁など）の耐震対策については、国の財政支援制度等を積極的に活用していきたいと考えています。

答 安河内都市整備課長

本町の坑道は、地上から150～180mにあります。液状化の可能性が高まる地盤条件（地下水位が地表面から10m以内）より深い位置にあること、また、地盤のボー

答 中嶋町長

避難するに当たっては、行政区や校区の枠がないことを周知させたいと思います。まずは、速やかに避難できる経路を各自で想定していただきたいと考えます。



須恵町防災ハザードマップ（平成27年3月に全戸配布済）

答 満行総務課長

昨年2月にハザードマップを作成し、20カ所を避難所に指定しています。

現在、各学校体育館を避難所としていますが、緊急を要する場合には、すべての教室を開放することで、収

田ノ上 真 議員



防災

町政を問う！

一／般／質／問

自主防災組織への避難指示は エリアメール等で伝達

問

今日の日本では、いつ、どこでも災害が発生する可能性があり、豪雨、大地震と、想定を超える災害が発生しています。

須恵町では、山沿いの佐谷区と上須恵区で自主防災組織が立ち上がっています。高齢化や単身世帯の増加などにより、地域コミュニティの担い手不足が顕在化する中、自主

防災組織で行われている、まち歩きによる危険箇所の把握や防災訓練などの取り組みは大変重要です。被害を最小限にとどめるためには、地域に密着した自主防災組織を活用することが望ましいと考えます。町から自主防災組織に対して避難指示等を出すことを検討しては

た、個人の携帯につながるエリアメール等を使って伝達します。

自動的に自主防災組織の役員や須恵町全域の携帯電話へも伝わる仕組みをとっており、最適な手段ではないかと思えます。

答 中嶋町長

エリアメール等の伝達手段がありますが、それを動かす空振りを恐れずに避難指示等を発令する判断が必要だと考えます。

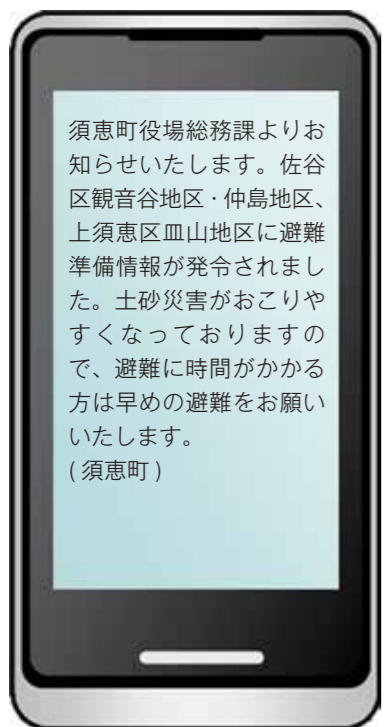
答 満行総務課長

避難指示等は、町が策定している「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」の「土砂災害時における発令基準」に従い、避難準備情報・避難勧告・避難指示をそれぞれ発令します。

その際は、同報無線や広報車、ま

エリアメール等の配信イメージ

※記載文面は、平成28年7月13日に配信されたメールの一部です。



須恵町役場総務課よりお知らせいたします。佐谷区観音谷地区・仲島地区、上須恵区皿山地区に避難準備情報が発令されました。土砂災害がおりやすくなっておりますので、避難に時間がかかる方は早めの避難をお願いいたします。（須恵町）